

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和2年10月16日（金）18：30～20：30

場 所：農村環境改善センター

出席者：12人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. これからのまちづくり（資料1参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

4. 懇談

5. その他（情報提供）

（1）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

（2）光回線の全面開通について

（3）新型コロナウイルス感染症対策について（資料2参照）

・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料2-1参照）

・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料2-2参照）

・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料2-3参照）

（4）空き家の利活用について

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築について】

町民：改築費用が高騰しても国からの助成は受けられるのか。

町長：改築費用が現在の見積もりである45～50億円を超えても、国が7割、栗山赤十字病院が3割を負担するのは変わらないので、工事は実行できる。

町民：栗山赤十字病院の改築後も、現在と同じく町からの補助金を出すのか。

町長：町からは約9700万円の補助金を出していて、救急対応に関する国からの補助や、町

の代わりに初期救急の対応をしていることなどを踏まえ、補助金を算出している。町が栗山赤十字病院を補助することで、国から補助金の8割が町に交付税として入る。約9700万円の補助で約7300万円が町に戻ってくるので、実際は約2000万円の負担。また、現在の病床数から100床まで減らせば、国からさらに手厚い交付が受けられる。実際に使われているベッドは100床ほどなので、改築のタイミングが良かった。町から栗山赤十字病院に1億8000万円を補助すると、国から町に1億4000万円が交付され、残りの4000万円は栗山赤十字病院の経営改善後に町に返済される。町と栗山赤十字病院が協力し、国の制度や補助金をうまく活用して改築を進める。

町民：栗山赤十字病院に救急車で運ばれたことがあるが、整形外科が曜日の関係で診療しておらず、札幌の病院で診察してもらった。栗山赤十字病院の改築は半世紀に一度の、町の大事業だと思う。町の医療体制、町民の健康、高齢者の福祉など、医療に関する将来的な視点について、どのように考えているのか。

町長：栗山赤十字病院は年間約1100件から1200件の救急依頼があるが、そのうち約50件は専門の医師が不在で受け入れできなかった。救急体制について、受け入れ拒否件数を少なくし、受け入れ実態を町に報告するように栗山赤十字病院には依頼した。これまで10年間に渡り議論をしてきた、町の医療介護や地域包括ケアのシステム作りについて、今回あらためて構築をしていきたいと考えている。南空知の中核病院との医療の連携。また、町内診療所との連携でいえば、例えば、栗山赤十字病院の整形外科は午前中だけだが、午後も診療してほしいという意見がある。その場合、町内にある他の整形外科に転院してもらう仕組みを作る。できるだけ栗山だけで完結するシステムを作るが、岩見沢や札幌の病院にも転院できるようにしたい。今後は地域包括支援センターとも連携して、リハビリや診療について相対的に議論し、町民が安心して医療介護を受けられる環境を作る。

町民：医療介護に関する、町民のニーズ・負担に応えてくれることが分かった。町の医療体制を確保するため、町長のプラスアルファの視点をさらに膨らませてほしい。

町民：現在の栗山赤十字病院は何人の患者が利用しているのか。病床数が100床に減るが、入院患者などが増えても、それ以上の病床を確保できるのか。

町長：これから検討委員会が立ち上がることになり、栗山赤十字病院の事務長や専門家などを交えて議論していくことになる。一般病床、療養病床、リハビリ病床などの割合をどうするか、専門家の意見を聞きながら将来を見越して議論したいと考えている。現在の病床数の状況については、担当から説明する。

日赤改築室長：療養病床は40床あるが、そのうち36床は使われているので、最低でも30床は確保しなければいけないと考えている。栗山赤十字病院とも話し合っていて決めるが、病院経営の事を考えると診療報酬は決まっているので、入院が長引くと報酬額が下がってしまう。町内の他の病院や施設などに転院してもらうか、在宅で治療を受けるのがベストだと思う。

町長：議会で角田に病院を移転する意見が出た。栗山は南北に長いので、角田は地理的には中心地だが、北部の方が人口は多く、バイパスや国道が整備されている。また、再開発されている駅周辺は、高速バスも走っていて交通の利便性が高い。移転には6億円の解体費

を町が負担する必要があるので、現地での建て替えが現実的。国にも建て替え費用負担の制度化を要望しているが、見込みは薄い。移転も含め、いろいろな選択肢がある方がいいと思う。

《質疑応答》

【その他（情報提供）】

町民：65年前に栗山高校を卒業したが、地域住民の学校を育てようという働きかけが強かった。長沼の生徒も栗山高校に入学していた。入試制度により格差が広がったが、栗山高校が楽しかった時代について町民に話せば、プラスアルファになると思う。

教育長：栗山高校がどんなに素敵な学校だったのか、特に中学生や高校生の保護者に知らせる機会を作るので、時間をいただきたい。

町民：町内のある地区から、新型コロナウイルス感染症の感染者が出たという話を聞いた。家の近くに隔離住宅があるが、夜は電気がつかなかったので、ただの噂だということが分かった。最初のころは感染しないよう、皆緊張していたが、最近はたるんでいる。感染した人が安心して、感染したことを話せるような雰囲気作りが必要。感染予防だけでなく、誹謗中傷が起らないよう、感染しても安全だということを町民に知らせてほしい。栗山赤十字病院に発熱外来ができたことは、広報の折り込みチラシにも載っていないが、町民が一番ほしいのは町内の情報。知らせてくれれば安心して通院できる。岩手県知事の話では、国内で唯一感染者がいないことがプレッシャーになったと言っているが、県民には感染しても大丈夫ということを伝え、誹謗中傷に対しては戦うとも言っている。感染したことを安心して話せるような雰囲気になるよう、チラシを作るなどして、町民に知らせてほしい。

町長：栗山で感染者が出れば私に連絡が入ることになっている。今まで報告はないので感染者はまだ出ていない。感染拡大の第3波が来ており、感染しないための努力だけでなく、感染した場合の誹謗中傷や偏見をしないよう広報等で周知していく。栗山赤十字病院の発熱外来は、厚生労働省の発熱等診療機関の指定を受け、11月9日から診療を始める。町民には栗山赤十字病院が周知する。また、新型コロナウイルス感染症の抗原検査とPCR検査が始まる。抗原検査は約1時間で結果が出るがPCR検査は少し時間がかかる。抗原検査は7、8割の確率で感染の有無が分かる。夕張でもわずかなきっかけでクラスター感染が発生した。誹謗中傷に対して、感染者を支援できるように情報発信したい。

町民：道新に掲載された、感染者を出したことは残念という夕張市長の発言に胸が痛んだ。本人がそのように思っていないとしても、上に立つ人の発言は気をつけてほしい。

町長：夕張市長とは連携を取り合っている。擁護するわけではないが、市長も誹謗中傷の禁止については述べている。私も発言には気をつける。

町民：あけぼのストアーが閉店して長い、いまだに角田には店がない。移動販売車はたま

に来るが、車を持っていない人は、日常的な買い物が不自由。地元の住民が呼びかけるだけでなく、町としても誘致に力を入れてほしい。セイコーマートやローソンは過疎地でも来てくれる。店側が土地代を払わなくてもいいので、町は土地を提供してほしい。

ブランド推進課長：直営の出店は難しい。フランチャイズで出店できる方法を考えているので、ご理解いただきたい。

町民：栗山は高速バスや JR が通っていて、子育て、教育、医療の環境がいい。町の外から見ても悪い場所ではない。栗山ならではの特色を情報発信し、ブランドを育てることが必要だと思う。今後 2 年間は新型コロナウイルスのワクチンが完成しないというので、若者を中心に、マスクの着用を呼びかけてほしい。飲食店の経営者と町の間を密にして、感染対策をとってほしい。高齢者を中心に町民は健康を心配しているので、一歩踏み込んだ情報発信をお願いしたい。

町長：若者のまち栗山として、栗山の魅力を情報発信する取り組みを進めたい。地域おこし協力隊はこれまで 20 人以上来ているが、6、7 割が定着した。café&bar くりとくらを開いたほか、日替わりレストランのヤムズキッチンを開店するなど、栗山に新しい風を吹かせる、重要な役割を担っている。新規就農者は 5 年間で 15 組が入り、ハウス栽培や露地栽培を始めている。人口減少は止まらないが、この 5 年間で若者が多く入っているので、一緒に町を盛り上げていきたい。新型コロナウイルス感染症対策は、すべてが徹底されているわけではないが、事業者もそれぞれの努力をしているので、緩みない感染対策を支援したい。町内の居酒屋やスナックなどの飲食店のほとんどには、感染防止のお願いに行った。

町民：町内の女性から、角田循環線は現在、農村環境改善センターの前から泉徳苑に向かうが、開拓記念館の前を迂回できないかという意見が出た。日出行きのバスが開拓記念館の前を通過して継立方面に向かうので、そう考えたと思うが、夕張橋が工事をしていて混雑するので迂回したのか。開拓記念館前の道路は支障がないように見受けられるので、検討してほしい。

建設総括：角田循環線は国道を直進して泉徳苑に向かうが、郵便局の角を右折して開拓記念館の前を通過ということか。

町民：以前バスが通るのを見たので通れない状態ではないと思う。3、4 年前にも同様の依頼をしたと聞いた。

建設総括：他の懇談会で話は聞いた。日出線は開拓記念館の前は通らない。日出始発のバスが栗山駅に向かう準備のため、近くを通ったのではないかと。令和 4 年度中にバスの経路を見直すように準備しているが、角田循環線は中学校の方まで回る長いルートなので、ルートの追加は難しいと思う。

町民：農村環境改善センターから泉徳苑まで、開拓記念館の前を通過すると 2 分かかるが、信号で待たされると 5 分かかるので、無理だと思う。

町民：特別定額給付金は、町民の 99.9%が受給したが、残りの町民にはどうしたのか。郵便が届かなければ職員が直接届けるとは聞いた。

福祉総括：5841世帯のうち、5833世帯が受給し、8世帯が未申請。1世帯はあらゆる方法を試みたが手紙が届けられなかった。2世帯は受け取りを拒否された。残りの5世帯は連絡がつかなかった。未申請の世帯には、電話や家庭訪問で申請をお願いし、介護のことなど、別な用事で役場に来てもらうなどして、99.9%という高い割合で終えられた。なお、申請は5月13日から始まったが、9割の町民が5月中に申請した。

町民：年齢のため、申請の内容などが分からない方がいたのかと思った。

町民：北海道バイオマス株式会社に販売した、建物を解体した後の土地に草が生い茂って、見栄えが悪い。坪当たり2600円で売却した計算になるが、鹿肉加工場も金額の中に入っているのか。

ブランド推進課長：当初の予定では10月に開業予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で工事が遅れている。年度中には事務所など敷地内の整備がされる予定になっている。隣の土地については、岩見沢の南空知森林組合に活用してもらう。敷地の木は伐採して整備する予定。建物も利用するよう依頼していたが、使わないとのことなので、町が解体した。

町民：鹿肉加工場は補助金で建てた建物だと思うが、名義変更はできるのか。

産業総括：南空知森林組合に貸す土地の上に加工場がある。国の補助を受けているので、用途が決まり次第、対応したい。

町民：角田には65歳以上の高齢者が多く、車で買い物に行くことはなかなかできないので、コンビニなどの商店の誘致をお願いしたい。

町長：整地してコンビニなどの施設を誘致したかったが、土地の相続が入り乱れていて難しかった。角田の商業施設誘致はブランド推進課を中心に働きかけていきたい。

町民：曙団地が完成すれば、コンビニの側から角田に来るとまちづくり懇談会で言っていたが、いつまで待っても来ない。

町長：待つだけでなく、こちらから動かなければ来ない。

町民：角田一号線を直進したところに一時停止の標識があるが、ぼろぼろに風化している。角田駅前線などの道路標識も風化してさびで赤くなっていて見苦しい。角田小学校の児童が社会見学などで通るので、設備の維持管理に目を配っていただきたい。

建設総括：早速点検して調査したい。

町民：消防の定時に鳴るサイレンが3分以上遅れている。消防団には以前話したが、いつまでこの状態が続くのか。

町長：消防には私から伝える。

20：30 終了